

製品名: M-CSF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13737**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	CSF1
別名	CSF1; Macrophage colony-stimulating factor 1; CSF-1; M-CSF; MCSF; Lanimostim
遺伝子 ID	1435.0
SwissProt ID	P09603
免疫原	抗血清はヒト CSF1 の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 505-554

背景

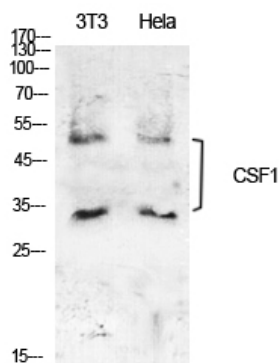
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マクロファージの産生、分化、および機能を制御するサイトカインです。活性型タ

ンパク質は、ジスルフィド結合したホモ二量体として細胞外に存在し、膜結合型前駆体のタンパク質分解によって産生されると考えられています。コードされているタンパク質は胎盤の発達に関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2011年9月]機能: 顆粒球 / マクロファージコロニー刺激因子は、血液中の2つの関連する白血球集団、顆粒球と単球-マクロファージの産生、分化、および機能を制御することで造血に作用するサイトカインです。CSF-1は単球 / マクロファージ系細胞を誘導します。免疫防御、骨代謝、リポタンパク質の除去、生殖能力、妊娠において役割を果たします。、PTM: 糖鎖付加とタンパク質分解により、様々な可溶性形態が生じます。高分子量の可溶性形態は、コンドロイチン硫酸を含むプロテオグリカンです。、PTM: アイソフォーム 1はN-グリコシル化とO-グリコシル化を受けています。アイソフォーム 3はN-グリコシル化を受けています。、サブユニット: ホモダイマーまたはヘテロダイマー。ジスルフィド結合しています。、

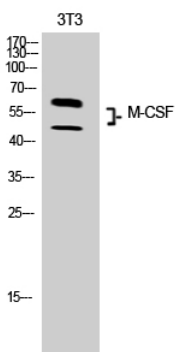
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;造血細胞系統;

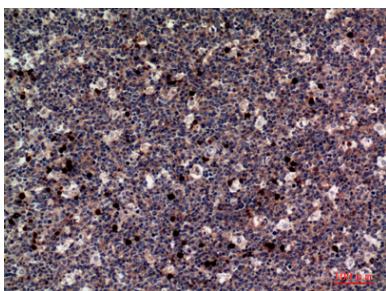
画像データ



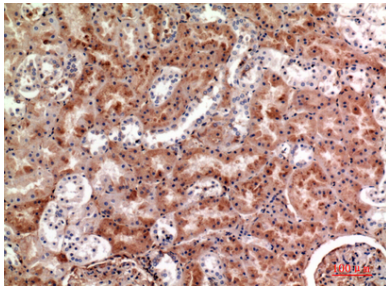
M-CSF ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3、HeLa 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



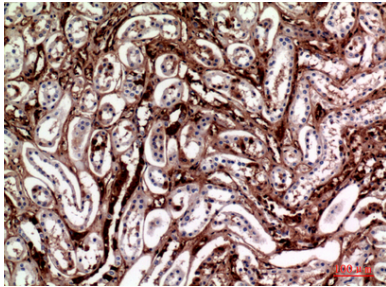
M-CSF ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



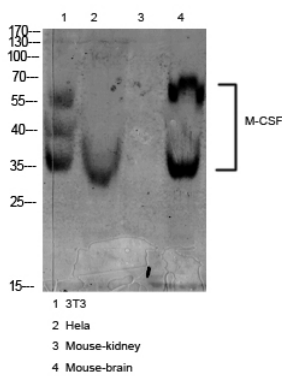
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



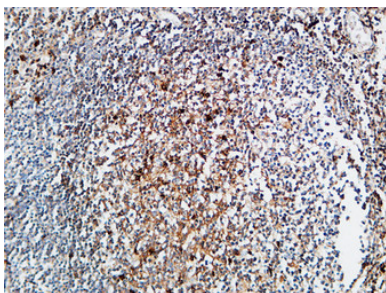
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



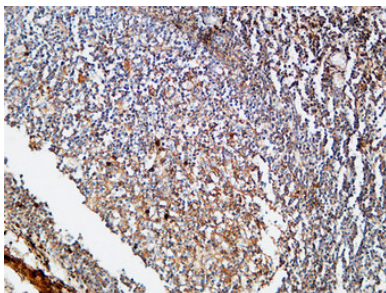
パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



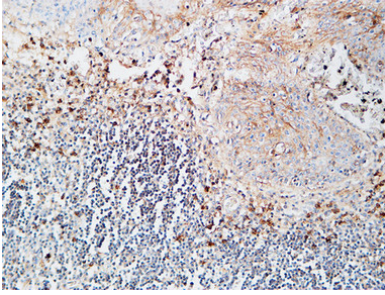
各種細胞ライセートのウェスタンブロット分析。抗体は 1:1000 に希釈。二次抗体は 1:20000 に希釈。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト扁桃体の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。